

主 題 Ⅱ 教 研 テー マ Ⅱ 「教 育 基 本 法 の 改 定 と キ リ ス ト
教 学 校」 日 時 Ⅱ 7 月 28 日 Ⅱ 30 日 会 場 Ⅱ 御 殿 場 ・ 東
山 荘 会 長 Ⅱ 深 谷 松 男 氏 同 盟 理 事 ・ 宮 城 学 院 学 院 長
主 題 講 演 要 旨 ・ 礼 拝 説 教 は 9 月 号 を Ⅱ 覧 く だ さ い。

新教育基本法を超える キリスト教学校教育

一、人間は教育によって人間となる。それゆゑに教育の基本理念は個人の尊厳であり、従つて教育の目的は人格の完成に尽きる。すなわち、自由の精神に立ち、他者の個人としての尊厳性を尊重し、自律的・市民的義務を負う主体の形成である。

キリスト教学校は、人間的な（一条）人間形成を目指すとしていたが、新教育基本法はこれを否定し、断髪形して、第二条は抽象的に人格の完成を目指すのみで、新たに教育の目的（二条）を掲げ、徳目・主義教育を全面に出している。そこでは「真理を愛する」は知育の部とされて、真理愛にあらず

人は神々中心の国共同体の員としての存在を認められるのであり、国から独立した個人はないとするもので、国・地域共同体の集約の秩序を上位におき、このような人間観による教育において、自己の所属集団を越えて、自発的創造的に平和的な社会形成に参加しようとする人格が果たして形成されるか。

四 このような新基本法の問題点を言うとき、キリスト教学校としては、これを越えて、国家を「不法な力」を今のところ抑えるために神に仕えるべきものとし、「神のもの」は神」との姿勢

を貰いて、自由、寛容に
して奉仕の責を知る人
間、平和への意志と勇
氣を備える人間の育成を基
本とする建学の精神に基
づく教育を学校の真の創
立者たる神の前に忠実に
進めたいものである。

〈宮城学院学院長〉

（特に第九条）を象徵する制度であることを見逃してはならないのである。したがって、免許更新の講習会は大学等が開設することになるのだが、各大学等は、新教基団の加担になるといふ散じり事実を踏まえたうえで、講習会開設の是非を慎重に議論し対応する。[「教基法改定に反対する

任も含めて、キ同盟執行部は、自らの立つべき地である根本的に譲つ直すのでないならば、キリス教主義教育という理念の旗を降ろし、単なる美

とも協力させていた。しかし、教長改定に際して沈黙していた私自身の浅はか

たキ同盟を安易に信頼

免許状更新講習制度

を今回痛感した。
 なお、免許更新制の問題点については、佐間西紀論文「世界」二〇〇七年二月号）で丁寧に論じられているので一読をお勧めしたい。
 〈東京女子大学准教授

キリスト教学校の
過去・現在・未来

評価と私学助成を組合せることで私学の自由が脅かされかねない。たとえば、北海道庁が補助金の査定項目に「国旗掲揚と

学校教育同盟（以下では「**キ同盟**」と呼ぶ）内で、「更新講習を開設するならば少しでも良い講習会を開くよう加盟校に呼ばれたらどうか」という動きを踏まえて、この動きを機軸として、平成元年に

二〇一二年に中学校学習指導要領が改訂されます。「道徳」の指導内容の一つである「自然を愛護し、美しいものに感動する」という項目は、これまで以上に重視され、

「二〇〇一年に作成された「心のノート」はその後、教育委員会から配布状況調査、更に活用状況調査が行われています。教師が子どもに成長の必要が出現した時に、

「1906年改定された教育基本法」以下では「新教基本法」と呼ぶ。この最大の問題点は、「内心の自由を侵害する危険を含んでいる」という点だ。改定後の動向を見る、とひとまず頓挫したものの「道徳科」のような官製道徳教育が強化された。また、昨年の学校教育法改定による学校評価制

たり、愛国心教育を求めたりといった事態が今後とも懸念される。先手打って、キリスト教教育としての道徳教育や愛国心教育のあり方と教材を、実践を整えておく必要がある。

新教基本法第九条は、一、部教員の身分を尊重しむこと、つまり「不適格教

かある。また、その素朴な気持ちには理解できるが、余分の節操の無きには啞然とするしかない。そもそも、牛岡盟は、二〇〇六年の教基法改定に際し、何ら行動を起こしていないし、昨年の教育三法改定に際しても何の対応もしていない。に

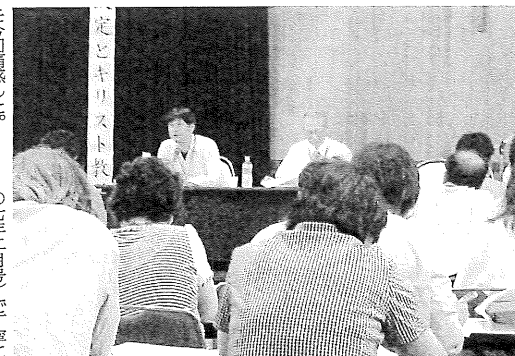
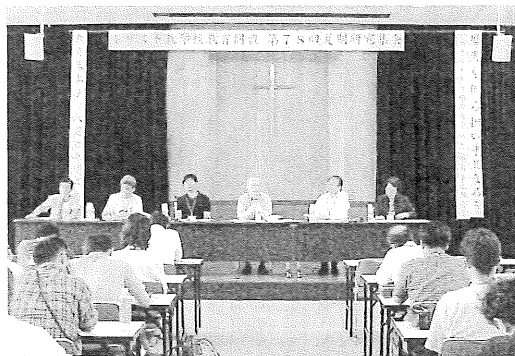
掛けることも政治的行動ではないのか。また、一般的に、ある政治的行動に関し、政治的であることに理由で沈黙することとは、結果的に、優勢な政勢勢力を利用することになるのだから、沈黙している方法で賛成を表明して

間方を越えたものには、
する畏敬の念を深めるこ
とが改訂指導要領にも
引き継がれています。文
科省は人間の力を超え
るものに対する畏敬の
念を教えることを二〇
〇〇年以降から指導内
容としています。文科省
の充実化に資するなど
文科省は補助教材とし

絶対のこの時に、キリ
ト教学校で聖書を通
イエスの生き方に倣
育意義は深いものが
この状況下で道徳
の充実化に資するな
文科省は補助教材と

教師の創意工夫が、教育内容と生徒の理解度を深めることが顯著となる要素を持っています。その仕掛けを活かした授業に教師は喜びを感じます。見

(3)面について



今回初めてキリスト教
校教育同盟の集会に参
加させていただきまし
た。大学院時代にバプテ
ストを教えた主だった
大矢西晴樹先生の主題講
義を始め、多くの先生方
の発題から爽りのある学
びをさせていただき、心
を感謝します。今回の
校の課題、すなわち時代
の変化の中で信仰に基づ
いた「生きる力」を私た
ちほびのうちに育むのか
という問題提起をきかれま
した。他の先生方も私た
ちが改定した教育基本
法にどのような向き合
い、「教育の道德化」の
（4面中段につづく）

主題Ⅱ「ともに創る」キリスト教学校の将来」

三日月 7月28日(月)
全体会での各グループ
発表と閉会式

いた。

あななの仕事をする上でト教学校が大切にしてきた目的はどうか、他の人の幸せに繋がっているか、組織に対してはわかれわかれの職場は横の連携で業務を遂行することに弱体質であり、職員が・園児が大きな存在を感じ

ンセリグの必要性を述べていました。私が現在働いている学校でも、道徳の「教科」化に対する危惧もありますが、キリスト教カワシメンに焦点が当てられています。心に

とをきき過すことができた。多くの出会いに感謝しています。私も、キリスト教学校で奉職する一人として、また聖書の御言葉を伝える者として、日々前向きに取組んでいます。私はこれ

教えてくれるもの
片岡 徹
今回の研究会を通じ
てまず学んだこととし
て、キリスト教学校教育
の歴史的立場づけが
とても重要で、今後とも
大切にしたいと考えてい
る次第です。一教区とは
異なる語彙にと言いつ
てもありますが、学生
や生徒に私たちが語り

が広がる。面影劇場東山荘、少し緊張した面持ちで全国がへ集った事務職員たち。これは日間の研修の中で共に学び考え語り合い、礼拝を捧げ、食卓にて歓談し、珍しげな顔を見せた富山に歓声をあけ、最終的には夏期学校での出会いに感謝し別れを惜しまれた。今年の夏期学校をプログラムの順に報告します。

講師は聖書に於いて語られてきていることが、私たちの社会生活、そして教育現場で仕事遂行を遂行するための規範にかなうことと示された。マタイ福音書25章14節以下にわたしのたとえを示し、わたしたちのひとはにはその能力をフルに開示することの必要時間、そして発揮する果かえら

に考えているか」について話し合う。事務職員が礼拝に参加している、聖書に親しむ機会の用意、そしてそのような職場環境ではないという参加者も。礼拝を通じて継続し、職員が教育の場で働く意義と喜びを深めていくのなら、そのことには

互いに励み合い、安心して
活き活きと仕事のできる
環境を醸成して作る必要
のあることを語られた。
講師である学校が「建学
の精神」をもとにして時
代にあったビジョンを作
り、学校をタレントツの教
育と研究の場に引き上げ
て、タレントの質を持つ
た学生、生徒を社会に送
り出してと語られ、多く
の参加者は教えられるこ
とに成長できたように思
います。職員室が大きな
存在に心を開き、お互い
の関わりは安心・信頼のな
か、コミュニケーションを分
かち合い、一体感を持つ
て働く職場を作っていく
たいという願いを込めて聞
会した。

石倉忠孝

〈広島女学院大主教部
事務課〉

生徒や教職員の魂のケを、現代において本当に必要とされているように私自身も感じます。

しかし同時に、内山先生や水口先生が述べられたように、新たな徳の「教育」化に向けての生きた方を学び、道徳教育を超えるキリスト教教育を提示しなければならぬことを説明かして下

置ました。また、各事柄の受けた感想や疑問も共に考え、より深めることができたと思います。

朝方の礼拝も素晴らしいです。御言葉を通して、牧師先生がわかれています。私達が神様と呼ばれキリスト教に集められていると言

いながら、深い悔みを抱えている生徒や教職員の魂のケを、現代において本当に必要とされているように私自身も感じます。

しかし同時に、内山先生や水口先生が述べられたように、新たな徳の「教育」化に向けての生きた方を学び、道徳教育を超えるキリスト教教育を提示しなければならぬことを説明かして下

り絶へて行きたいです！
（横須賀学院小学校宗教
主任）

とよく言葉
つながら言葉を集めて
大澤秀夫

長き教会の牧師として
働いてきたが、この春より
歌和学園大学でチャプ
レンとして働くことにな
り、今回の夏季研究集会
とすききり、

い。むしろ私の言
事なを否定したと思
ための大事な指摘であ
のだと思う。信仰者で
ることを、ないことを
て、共有で意義論の
方、つくりの量を得
ための努力と整理が必
であるし、それによ
様な成員を抱えて、
リスト教信仰に生き
とするキリス、

ありました。明治学院の學
生で、明治學院の西郷樹
先生の講義を通し、現情
の時系列にとどまること
のない立体的、空間的な
理解をするのが出来た。
これは、大藪史俊に宣た
む、またない機会をな
さず、歴史は現在をな
考察する灯火の軌道を果
たすだけではなく、現在
のような教育や社の諸
問題が混迷を極める時期
として、時には熱語の合
つことが出来た。私たちが
にこのと同様、私たちが
あつても、未来を捨てて
す、むしろ希望を切り開
く強い志や意を持って
いこう、と改めて再確認
する良い機会となりました。

私たちの生きている社
会をそして教育を、東山
荘という自然が溢れ、そ
して大藪静かな環境のもの
として、時には熱語の合
つことが出来た。私たちが

一 日 目 7月26日(土)
開校式において、平塚校長がキリスト教学校の使命は何かを考えキリスト教学校の将来を共に創つてと参加員に呼びかけ、林秀行委員長がキリスト教学校を支えてきた礼拝の意義について触れ

「人間のタラシの質とは何か」という問いに今後先生とともに取り組む。

グループ討議Ⅱ
「キリスト教学校の使命を担うために、今私たちにできること」をテーマに、各グループで討議した。



に教員免許更新制のため、同窓の大学で受講制度を開設し、プログラムを開発することはとても興味深い提案でした。是非実現させてほしいと思っております。

松山東雲中学校・高等学校宗教教室主事

また、お互いの学

た。五人の講師によるお話を通して、それぞれの視点から国策との関わりの中で、確立した基督教の独自性を確立していく苦辛を察せられた。以上の講演・発題を受けて、三回の分団協議が行われたが、私は大学グレードで対応することを教

み出す上で数多くの事を
教えてくれたと考えてい
ます。改めて戦時下であ
った、決して平坦ではな
くないキリスト教学校教
育同盟の歩みのみなら
ず、それを取り巻く社会
の情勢について再度学び
直す必要性をも痛感しま
す。(北星学園大学文学部書
任講師)

とができる。学生、生徒が何を求めているか、何が必要なのかを著者え、できるだけ実行してみる。求めている人を前にして自分が座り込んでいることはないか、立ち上がり駆け寄ってい

計画に協力した。若手現場で働くフロアだとエントランスを暗くしてた。個々人には「仕事において深さとか広さを傳えることに努める」と、仕事を手交して仕上げれば他の人の目に止まりその仕事は他人に生かされる。

またとめて。キリッとして。クリッと言った。瞬間に別のフェイスカッションの紹介と作成を行った。特性能因図の説明を行った。特性能因図はカメラで写し撮りたい、と思うほどに大変機敏に書き込んだ。

中高大学の間に温度差があるように思われます。教育と政治を区別して、政治的な発言を控えたいという先生があまりす。水口先生は、私たちがしなければならぬこととしてギリギリ教カウですが、お互いの学校の

の口から自分自身をいかに「まじめな身重」に「直す機会が無

い」ように「なつてい

く」中、この研修会に参加

する「とができて感謝し

ていまふ。自分の至らな

さを再認識すると同時に

に、同僚者の方々の姿勢

に圧倒された感銘と

励みを受け、楽しいい

つとに思ふ。

歴史が
重なり合つて、とど
く言葉、つながら
見出して、努力を始
ていきたいと思つ
《敬和学園大学宗教部
ますが、だにはそ
の研修を通して知り
諸先生方と今後交

互いに励み合い、安心して
活き活きと仕事のできる
環境を醸成して作る必要
のあることを語られた。
講師である学校が「建学
の精神」をもとにして時
代にあったビジョンを作
り、学校をタレントツの教
育と研究の場に引き上げ
て、タレントの質を持つ
た学生、生徒を社会に送
り出してと語られ、多く
の参加者は教えられるこ
とに成長できたように思
います。職員室が大きな
存在に心を開き、お互い
の関わりは安心・信頼のな
か、コミュニケーションを分
かち合い、一体感を持つ
て働く職場を作っていき
たいという願いを込めて聞
会した。

石倉忠孝

〈広島女学院大主教部
事務課〉

生徒や教職員の魂のケを、現代において本当に必要とされているように私自身も感じます。

しかし同時に、内山先生や水口先生が述べられたように、新たな徳の「教育」化に向けての生けるキリスト教教育を超えるキリスト教教育を提示しなければならぬことを説明かして下

置ました。また、各事柄の詰し合う事柄を受けの感想や疑問も共に考え、より深めることができたと思います。

朝の礼拝も素晴らしいです。御言葉がわたしたち、牧師先生がわかれています。私達が神様を呼ぶキリスト教に集められていると言

り絶へて行きたいです！
（横須賀学院小学校宗教
主任）

とよく言葉
つながら言葉を集めて
大澤秀夫

長き教会の牧師として
働いてきたが、この春より
歌和学園大学でチャプ
レンとして働くことにな
り、今回の夏季研究集会
とすききリスン、学校

い。むしろ私の言
事なを否定したと思
ための大事な指摘であ
のだと思う。信仰者で
ること、ないこと實
て、共有で意義論の
方、つじうら言葉を
ため、努力と整理が必
であるし、それによ
様な成員を抱えて、
リスト教信仰に生き
とするキリスン、学校

ありました。明治学院の學長で有名な西郷樹生先生の講演を通し、西郷の時系列にとどまる、としない立体的、空間的な理解をするのが出来たことは、大変幸運に宣つた。

また、歴史機会をなす、むしろ現在を考察する灯火の動を果したわけではない、現在の教育や社の諸問題が混迷を極める時期として、時には熱語合戦うことが出来た。

「人間のタラントの質とは何か」という問いに今後先生とともに取り組む。

グループ討議Ⅱ
「キリスト教学校の使命を担うために、今私たちにできること」をテーマに、各グループで討議した。



に教員免許更新制のため、同窓の大学で受講制を開設し、プログラムを開発することはとても興味深い提案でした。是非実現させてほしいと思っております。

松山東雲中学校・高等学校（学校宗教主事）

また、お互いの学

た。五人の講師によるお話を通して、それぞれの視点から国策との関わりの中で、確立した基督教の独自性を確立していく苦辛を察せられた。以上の講演・発題を受けて、三回の分団協議が行われたが、私は大学グレードで対応することを教

み出す上で数多くの事を
教えてくれたと考えてい
ます。改めて戦時下であ
った、決して平坦ではな
くないキリスト教学校教
育同盟の歩みのみなら
ず、それを取り巻く社会
の情勢について再度学び
直す必要性をも痛感しま
す。(北星学園大学文学部書
任講師)

各地区の夏期行事

東北・北海道地区

二つの講演
「弘前学院の歴史」
「日本メソジスト教会の誕生と本多庸一」
地区教育研究会大学部会

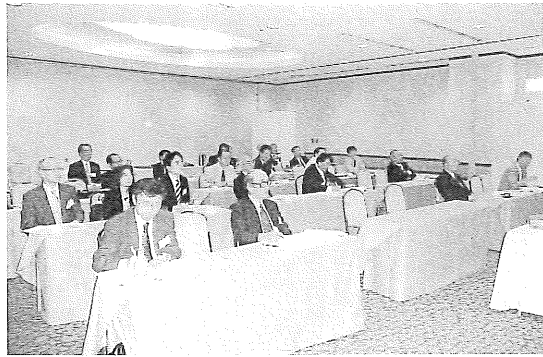
研究会は、主題「歴史」を創る担い手になろう、とキリスト教学校の過去・現在・将来を握る「一」により、二十五名(五大学)の参加で、ベアストウエスタンホテルニユースティン弘前において開催された。

第一目次開会辞は、中澤寛郎氏(弘前学院大学学長)が、出エジプト記20章1-3節をキリストに「キリスト教学校は何を伝えるか」との題で説教をした。教会と学校の生命線は礼拝である。教会は福音を伝える。学校の目的は教育である。「教育基本法」の「教育の目的」は「人格の完成である。それをキリスト教学校は福音に



本郷 亮氏

深町正信氏



講演1は、関直規氏(弘前学院)の司会で、本郷亮氏(弘前学院)によつて「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため

九〇七年就任。また、メソジスト教会三派合同にも尽力を尽くされた。彼は、アメリカに滞在中、宗教の道が政治の道かと悩んで、ビクトンの駅路を歩いていた時、間の一髪で助かり、そこでい

後、講演に入った。講演1は、関直規氏(弘前学院)の司会で、本郷亮氏(弘前学院)によつて「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため

「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため

た。内容が豊かで時間が足りない感じがした。開会礼拝は、佐々木省夫氏(東北学院)が「あなたも来なさい」との題で、ルカ福音書第25章37節より説教した。内容のポイントは二点あり、一は、第二の回心をなして伝道者の道を歩んでいくこと。二は、神の恵みにより、我々の学校より、所謂、Bを

「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため

「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため



新人研修会

「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため

「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため

「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため

「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため

「弘前学院の歴史」が語られた。弘前学院は一八八六年明治十九年本多庸一牧師によつて弘前教会女子教育のため



標名ワークキャンプ

関西地区小学部会

第一回夏期研修会 開催される

磯貝 曉成

プロテスタント系小学校の殆どが関西地区に存在し、その教員の研究集会はこれまで関西地区で行われてきた。その中、同志社小学校に続いて関西学院初等部が創立されて、関西地区にも小学校の輪が出来てきた。これまでも同志社小学校、近江兄弟小学校、広島三育小学校・広島三育大と小学校とで小学校は六校となり、今夏七月二十九日(水)近江兄弟小学校において「関西地区小学部会第一回研修会」が開催された。各校ともこの日はほぼ全員参加を申し合わせ、当日は関係者も含めて七十八名で実施された。近江八幡駅からスクーターバス三台に分乗して近江兄弟小学校に着き、十時から学園牧師道城(教一)先生による開会礼拝(赦免は赦し主イエスの御名、学校はイエスの御名に学ぶことを通して互いが協力、を素直にうたい、オリーブと和礼堂を守り、続いて教育同盟関西地区代表理事野本真也先生(主権者代表)としての挨拶(関西地区の小学校は、

十五時から一時間半は、グループに分かれて学校の近郊のフィールドワークを行いました。(1)北沢沢、兄弟社、体験(2)ウオリ、建築物見学(3)琵琶湖、水郷見学(4)一柳記念館見学、時間が足りなな参加者の充実した内容に満足でした。近江兄弟社の先生方の日の子どもたちに接する細やかな配慮が伝わってきました。会の開催にあたり多くの課題を解決しながらのおもてなしに深く感謝申し上げます。開会礼拝の後、次回(10月)の会場校の同志社小学校鈴木直人先生が挨拶されて会を開閉しました(研修会は隔年で実施、続いて三育院、北

三〇〇八年度キリスト教文化学会内二〇〇八年度のキリスト教文化学会大会は、十月三十一日(金)十一月一日(土)、西南学院大学(福岡市早良区)において開催されました。主

ト教東アジアの只中で平和を考へる」です。一日目は、西南学院大学法学部教授の河島幸夫氏と沖繩キリスト教文化大学特任教授の神山繁貴氏のお二人に基調講演をお願いしております。お二人の講演タイトルはそれぞれ、「戦後ドイツの教育と平和問題」(沖繩で平和を考へる)、「二日目の午前中」です。二日目の午前中は、「世界平和とキリスト教東アジアの只中」をテーマに、(一日目の講演をめぐって語り合おう)というタイトルでシンポジウムを行います。シンポジストは河島氏、神山氏、日本基督教団福岡平和記念教会牧師の森田豊氏、西南学院大学の卒業生で国際協力・環境NPOスタッフの寺嶋俊彦氏、河島、神山両氏の基調講演を受けて、森島

寺嶋両氏にそれぞれの立場から提議をしていただき、参加者全員で世界平和について考えることになっています。多くの方々の参加をお待ちしております。加盟校には別途案内しておりますが、問い合わせは西南学院大学秘書課・木原、金堀(092-836-241)まで。

「公 募」※記載のない採用予定日は09年4月1日です。編集後に連絡のあった公募が若干あります。掲載できませんでしたが、ごめんね。

一口に洗礼と言ってもいくつかの方法があるからわかんない、という、それだけの教派、教団は自分たちの聖書解釈に応じてそれを様々な方法で実施している。洗礼名(クリスチヤン)をつける教派もあります。他教派から転入してきた人が受洗者であっても再洗礼を求める教派もあります。洗礼が信仰生活の入り口であると思えば、信仰の根幹をなす礼拝を受ける必要があり、洗礼の方法に込められた意味を知ることによって、神と共に歩む決意の大切さを心に刻み込むことが必要です。聖書を規範としたクリスチヤンとしての生活を大切にする、という思いから、様々な方法がある中、キリスト教の多様性を見る。洗礼名(クリスチヤン)をつける教派もあります。他教派から転入してきた人が受洗者であっても再洗礼を求める教派もあります。洗礼が信仰生活の入り口であると思えば、信仰の根幹をなす礼拝を受ける必要があり、洗礼の方法に込められた意味を知ることによって、神と共に歩む決意の大切さを心に刻み込むことが必要です。聖書を規範としたクリスチヤンとしての生活を大切にする、という思いから、様々な方法がある中、キリスト教の多様性を見る。

後記 今号は八頁で前月に引き続き東山地区協議会の夏期行事報告となりました。研究集会を取り上げた教員の免許更新講習については、その後三回教研委員会が開かれ検討が続いた。その内容は近々新聞で取り上げる。ことなるが、(1)にも都議会と地方の事や意識の違いが大きいことを感じ、夏期行事報告は重要な内容であるが、教育同盟の状況を知るために読んで欲しい。(元島)